

大学は知の砦 ―グローバルな大学政策を考える―

教育評論家・法政大学特任教授

尾木直樹

論点① 国の規制は大学の国際競争力の低下を招くのでは？

～どうすれば日本の大学の国際競争力が上がるか～

- ・ THE 世界大学ランキング 2018 東京大学 46 位(世界 81 ヶ国 1,102 校中)で過去最低。早稲田、慶応は 601-800 位、法政大学は 801-1000 位
- ・ アジアの中でさえ、東京大学は 8 位という悲惨な現状
- ・ 大学の自主性に基づいた多様な発展性を阻害することは国際競争力の低下を招く危険
- ・ 国際的競争が激しさを増す中、日本国内でだけの視野の狭いパイを奪い合うような議論ではなく、「AI 時代」を生き抜き「BI 時代」を見すえたグローバルな視点でアクティブに議論すべき

論点② 「東京対地方」の構図は日本全体にとってマイナスになるのでは？

～本当の地方創生のためには何をすればいいのか～

- ・ 東京対地方という対立構図は国全体の研究・開発の停滞と地盤沈下を招く
- ・ 東京が抑制されると、地方ではなく海外の大学へ行く学生が増える(日本の国際バカロレア認定校は 2017 年 6 月時点で 46 校、小中学生の海外移住熱)
- ・ 地方に根付いた大学の特色を打ち出し、得意分野を伸ばしながら地方の活性化に貢献する。労働市場の確保にもつなげる

論点③ 学びたいという若者の夢をつぶしていいのか？

～場所に限定されることなく、若者が学びたいことを

学べるようにするにはどうすればいいのか～

- ・ 若者の「学びたいところで学ぶ」という基本的な権利を保障すべき
 - ・ 学生が学びたいと思える環境の整備と予算の投入
- (進学先検討時の重視項目は、学びたい学部・学科・コースがあること 27.1%)
- ・ 秋田国際教養大学のようなグローバリズム、批判的思考力、判断力、表現力に優れた人材育成のためのカリキュラム改革を目指す

<おわりに>

英知を集めて、東京も地方も活性化し、国が発展する道を模索すべき

以上